

HONMAN

HONMAN PIECES

図書館ボランティア「本探」が
旬の図書館情報をお知らせします

2012年6月号
第29号



今回の12ピースのテーマは、

「明るく、元気になる本」

です。ついでながらも6月も、読書で乗り切る
ことが出来ます!....です。

空のすめ 福田栄一
913.6/F

『夏色ジャンクション』

700万円をもつたお爺ちゃんとのお金で
狙う住所不定無職の男の旅。

伊豆のすめ 奥田英朗
913.6/I

『サウスハント』

元過激派で、子に「学校に行くな」と言い、
税金を払わない破天荒な父との家族の話。

その他のすめ 宮部みゆき
913.6/M

『ステップファーザー・ステップ』

中学生の双子と父親代わりにされた
泥棒の、奇妙で暖かが物語。

のすみのすめ 萩原浩
913.6/O

『あの日にトライブ』

うだつの上からない父の葛藤を描いた作品。
きっと今の人生も捨てたもんじゃない。

Y田のすめ

『本日は大安なり』

同日に同じ結婚式場で式を挙げる4組の
カップル。大吉日、それどれ式の結果は……

カーネのすめ アレックス・ロビン
913.6/K

『グッドラック』 田内志文訳

マックスはすべてを失い変わり果てた友に祖
父から聞かされた魅惑の森の物語を語り始めます。

花澤のすめ 西加奈子
913.6/N

『漁港の肉子ちゃん』

直抜きに明るく素直で破天荒な
母親と、その周囲の人々の物語。

スモのすめ 三浦しおん
913.6/M

『まほろ駅前多田便利軒』

お困りの節はお電話ください。
一セミナーハーフ、ユーモア半分。そしてなぜかほのける話。

きょうのすめ 伊吹有喜
913.6/I

『四十九日のレシピ』

妻を亡した夫、その後、金髪をやって迎え
四十九日。家族で難いけどあたたかい。

七味のすめ 森見登美彦
913.6/M

『夜は短歩くよ乙女』

天然な彼女に振り向いてもらおうと
頑張る私と奇妙怪な人たちの物語。

きょうのすめ 野中ともと
913.6/N

『鴉とぶ空のアリスト』

超ダ×ダ×親父とその息子、そして
ロックの帝王が織りなす珍道中。

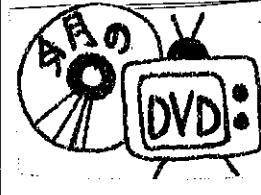
なのかのすめ 日野俊太郎
913.6/H

『吉田キウルマレナイト☆』

スツアターから着ぐるみの中の人
転身! 終始前向きが勢い小説。

コラム
本探力
あきの「広島東洋カープ」

突然で
すが広島
東洋カープ
の「カープ」
がどこか
りきて
い



物語は時系列に並んでいたため混乱し
てしまします。しかし、それが良い効果
を發揮しています。人間の記憶の曖昧さ、
して、脆さを実感させられるミステリーで
⇒『MEMENTO』 778.72/M <全>

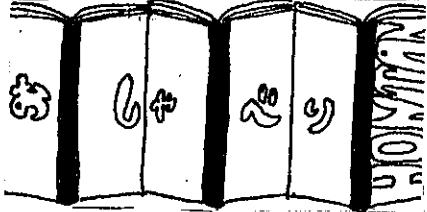
HONTAN
展示で
みつけた

DVD展示

今回のDVD展示は「原作のあるDVD」
集です。原作小説と映像化された作品には、終わり方や
うまでもあるので、どちらも見せます! <カバ>

学生展示

今回の学生展示は「バックセラピー」
元気&癒しの本特集と題しました。いくつも本たちを集



朱：今回のおしゃべりのテーマは「好きな作家・作品について語ろう！」です。

今まで読んだ中で一番好きな作家さん及び作品について、熱く語って下さい。

よのか：ずっと言い続けているけれど、

大島真寿美／「やがて目覚めない朝が来る」(913.6/10)これが好き！

大島さんの本はこの1冊しか読んだことがありませんが、私が読んだ本の中で一番好きと言っても過言ではないくらい好きな本です。

ひとりの女の子の物語ですが、基本的に娘子のおばあちゃんやおばあちゃんの知人についてのあれこれを女の子の目線で書いている本です。私の思うこの本の魅力は、おばあちゃんを含め、女の子の周りにいる大人が素敵だというところです。特に素敵なのは、女の子のウェディングドレスを作ってくれたミラさん！ 女の夢の舞台と、もっと素敵に演出してくれた方！

そんな素敵な人は珍めらしく年上なので、次といなくなってしまうのです。いかなくな先にさまり一緒に過ごした時間の素晴らしさを少しでも伝わるか話です。

花蓮：すばらしい有名なんだね、伊坂幸太郎さんとか、島本理生さんの「リトルベイビートル」(913.

「重力エロ」(913.6/T)

家族ってなんなのか、つながりってなんなのか、本当の絆とは何か。

中学高校時代からずっと、何度も読み返してぼろぼろになるまで読んだけれどこの本が初めてです。

作品全体が雰囲気も、あらすじも散りばめられている伏線も印象的な言葉も好きだと、とにかくここで描かれている家族の関係性が素敵です。

こんなお父さんがいたらな、と思いまよ(笑)

空：私は辻村深月さんの「凍りのくじら」(913.6/T)で。

居場所のなかで、好高生が自分の居場所で見つけられず思議な話なんですがさすが辻村さん。いろんなところに伏線があり読み終わって後ろへ2回目が読みたくなりました。

田：三浦綾子さんの「泥流地帯」(913.6/11-4)

北海道出身の作家さんで、登場する場所も北海道が多いです。泥流地帯も、上富良野の市街をぐるりに行けば部落が舞台。

大正時代の大勝岳大噴火で、家も学校も恋も夢も泥流と一緒に押し流されて……。

真面目に生きていた主人公たちにも容赦なく悲しいが泥流は無常を感ひながらも命を生き、生きながら人生について考えさせてくれる本です。読みたびにいろいろなことを教えられて人生観も影響を与える本かも。

とかか：私は島本理生さんの「リトルベイビートル」(913.

6/S)。

家族の話であり、恋愛の話であり、女の話であり、人のもの話であると思っています。なぜか物語の何事もないように流れを進めていくと、先もそんな風に穏やかに続いていくんだろうなって、うるさい感じある話です。

きょう：和田竜さんの「ぼううの城」(913.6/11)ある小さい城の「ぼうう」とあたる名からほとどのダーマ城主が、あの石田三成に喧嘩吹かれてやうやく話をうけます。

天皇の才を持った臣臣。どんどん変わる戦況。東切りに寝返りを打つもあります。まるで小説ファンのようですね。良く話が進みます。でも本当にあつこことなんですが、この本ほどワクワクしながらページをめくった本はありません。

歴史小説ということで、言葉遣いとか書き方とも慣れない親しみのある文章ですが、それがまた、その時の情景がはっきりと目に浮かぶようです。

がく：荻原浩さんの「鳴」(入荷待ち)

物語は、ある企業があるある殺人鬼が女のみ足を切りに来る。しかし、ミリエルという香水を使うと組合ねらいというロコモーションを利用し、噂を広げ、この香水は大ヒットします。

しかし、実際に足首へたる少女の死体が発見されてしまう。さて、この事件の真相はいかに……？

この作品のやりは最後の一行きです。

また、作中事件が何度も発生しますが、ちゃんと存在し読み直した時にそれが付く気がします。

ダ・ヴィンチ

6月号

P176~P179

批評

家の

HONTAN

雑誌の書評を紹介

PICK UP MAGAZINES

THE SHON MUST GO ON

映画の批評を行っています。

今月号はNHKの『カーネーション』

というドラマについてでした。

この連載での批評は、その時代の象

の背景や、現在起きていることと連

絡みと現在の事象とを繋げて書かれています。

ドラマの説明は私たちを納得させ

する内容になっています。別た

角度から見ると面白くない文

章です。

〈緒〉

6月です。6月といえば、多くの多

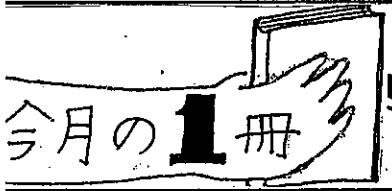
季節。雨垂れの音を聞きながらの言

葉音が聞こえます。それは「

米澤 稔信

「大はどこと」

913.6/1



紺屋長一郎は探偵を始めた。探偵といっても何でもやる探偵ではない。犬を探すこと専門とした私立探偵だ。——なのに、最初に舞い込んできた仕事は失踪人探しと古文書の解読!? トレンチコートを着ているようなよくある探偵像に憧れて助手を志望する後輩と分担し、しかたなく仕事に取り掛かったものの……と、簡単に言えばこういう話。しかし2つの事件は巧妙にリンクし、紺屋は最後に苦い決断をします。

これは、とてつもなくドラマティックで、どこまでもコミカルで、でも、どこまでも現実的な物語です。物語の中に潜む「現実」はきっと、なかなか消えない読後の余韻を残すでしょう。

〈とおか〉

宏太通信 館長さん 情報部

今年度の図書館長は社会福祉学部学部長

の横山穰先生です。福祉臨床学科の先生で、北星は16

野常寛さんの連載「THE SHOW MUST GO ON」では、ドラマ映画の批評を行っています。今月号はNHKの『カーネーション』というドラマについてでした。この連載での批評は、その時代の象徴的設定がされていることと、現在起きていることと連絡みと現在の事象とを繋げて書かれています。ドラマの説明は私たちを納得させる内容になっています。別た角度から見ると面白くない文章です。

6月です。6月といえば、多くの多季節。雨垂れの音を聞きながらの言葉音が聞こえます。それは「